

## 学会発表

- 1) 大沢秀行・光永聡子・井上美穂・竹中晃子・杉山幸丸・A. Soumah・竹中修 (1989) ニホンザル配偶行動のクラス間差異. 第5回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 5:143.
- 2) 大沢秀行・光永聡子・井上美穂・竹中晃子・竹中修・杉山幸丸・野崎真澄・佐倉統・S. Gaspard (1989) ニホンザルの配偶行動のクラス間差異. 第8回日本動物行動学会大会講演要旨集:18.
- 3) 鈴木晃 (1989) 熱帯雨林国際シンポジウム, 熱帯雨林国際シンポジウム実行委員会 (9月10日・東京).
- 4) 鈴木晃 (1989) 1983年のカリマンタン熱帯雨林の大山火事以後のオランウータンの土地利用と食性. 第43回日本人類学会 (岡山).
- 5) 五百部裕・加納隆至 (1989) ビグミーチンパンジーの単位集団の出会い. 第26回日本アフリカ学会学術大会研究発表要旨:1.
- 6) 五百部裕 (1989) ビグミーチンパンジーのオス間関係の単位集団間比較. 第5回日本霊長類学会 (東京).
- 7) 古市剛史 (1989) アフリカ大型類人猿の社会構造と人類進化. 第43回日本人類学会・日本民族学会連合大会抄録集:89.
- 8) 大井徹 (1989) マカカ属における配偶システムの進化について. 第5回日本霊長類学会 (東京).
- 9) 松村秀一<sup>(2)</sup> (1989) ニホンザル嵐山E・F群のワカオスの群れ移籍と社会交渉. 第5回日本霊長類学会 (東京).
- 10) 小林隆<sup>(2)</sup> (1989) 都井岬の半野生馬における集団形成の季節変化. 第8回日本動物行動学会 (東京).

## 変異研究部門

野澤 謙・庄武孝義・和田一雄

### 研究概要

#### 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内, 群間の変異性を定量化する. 現在までにニホンザル51

群, 総個体数約3,409頭の血液試料について, 35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた. また新たにミトコンドリアDNAの多型を標識として加えた. これらデータをもとにして, 統計的検討を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である. '89年度は共同利用研究者と共同で等電点電気泳動法を用い, DBP (Vitamin D binding protein) と ORM (Orosomucoid) の変異遺伝子の分布状況を明らかにした.

#### 2) Macaca属サルの系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルを含むMacaca属サル各種から材料を採集し, 前項1)と同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し, それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し, それに数量分類学的手法を適用して枝分かれ図を描く. それにより種間の近縁関係, 分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である.

#### 3) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって, 家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と, 個々の家畜内で地域集団間の遺伝的分化の程度, 系統的相互関係の解明を行いつつある. '89年度にもネパールにおいて海外調査を行い前回調査の資料不足分を補足した. さらにナイロビにあるILRAD (International laboratory for research on animal diseases: 国際動物病研究所)にてJICAの援助によって, アフリカ在来牛の起源を求めるプロジェクトに参画した.

#### 4) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野澤 謙

'89年度には'88年度から5年計画で開始した“エチオピアにおけるヒヒ類の種分化に関する研究”の予備調査のためエチオピアに行き'92年度までの文部省科研究費によるアジスアベバ大学との野外共同研究を具体化させた.

#### 5) 中国黄山でのチベットモンキー研究

和田一雄

チベットモンキーの社会行動のまとめを行っている.

## 総 説

- 1) 庄武孝義・峰澤満 (1989) サルの遺伝学実験法. 黒田行昭編「動物遺伝学実験法」共立出版, 331-345.

## 論 文

- 1) Kawamoto, Y., Nozawa, K., Matsubayashi, K., & Gotoh, S. (1988) : A population genetic study of crab-eating macaques (*Macaca fascicularis*) on the island of Angaur, Palau, Micronesia. *Folia Primatologica*. 51 : 169-181.
- 2) 横浜道成・渡邊泰子・小林悦子・庄武孝義・野澤謙・茂木一重 (1989) 馬の transferrin 型および esterase 型の分類. 日畜会報 60 : 115-120.
- 3) Hayashi, Y., Nishida, T., Shotake, T. & Kawamoto, Y. (1989) Multivariate craniometrics of Yak in Nepal. *Jpn. J. Vet. sci.* 51 : 1037-1039.
- 4) Nozawa, K. & Itoh, Y. (1989) Biochemical genetic differentiation among nine species of polistine wasps from Japan. *Insectes Sociaux*, Paris. 36 : 183-196.
- 5) Matsubayashi, K., Gotoh, S., Kawamoto, Y., Nozawa, K. & Suzuki, J. (1989) Biological characteristic of crab-eating monkeys on Angaur island. *Primate Res.* 5 : 46-57.
- 6) Nishida, T., Hayashi, Y., Kattel, B., Shotake, T., Kawamoto, Y., Adachi, A. & Maeda, Y. (1990) Morphological and ecological studies on the red jungle fowl in Nepal, the first and second investigations in 1986 and 1988. *Jpn. J. Zootech. Sci.* 61 : 79-88.

## 報告・その他

- 1) 野澤謙・庄武孝義・峰澤満・川本芳・早坂謙二・川本咲江・竹中修・松林清明 (1990) ニホンザルの遺伝子構成と集団構造. 野澤謙編「霊長類の進化と人類の起源」平成元年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書. 1-34.

## 学会報告

- 1) 川本芳・並河鷹夫・足立明・庄武孝義・天野

- 卓・林良博・西田隆雄・H. B. Rajbhandary (1989) ネパール在来牛, 在来水牛にみられるミルクタンパクの電気泳動の変異. 第82回日本畜産学会 北海道.
- 2) 庄武孝義 (1990) アフリカ在来牛の起源について. 京大アフリカ地域研究センター 第6回シンポジウム.
- 3) 和田一雄・熊成培 (1989) チベットモンキーの雄間交渉の行動レパートリー. 日本哺乳類学会1989年度大会. 講演要旨: B22.
- 4) 熊成培・和田一雄 (1989) チベットモンキーのオスの交尾行動. 日本哺乳類学会1989年度大会. 講演要旨: B21.

## 生活史研究部門

杉山幸丸・森 明雄・山極寿一・広谷 彰<sup>1)</sup>

### 研究概要

- 1) 西アフリカの熱帯多雨林および乾燥サバンナに生息する狭鼻猿の比較生態学  
杉山幸丸・森 明雄・大沢秀行<sup>2)</sup>  
三谷雅純<sup>3)</sup>・中川尚史<sup>3)</sup>・室山泰之<sup>4)</sup>  
カメルーン国南部の熱帯多雨林(カンボ)と北部の乾燥地帯(カラマルエ)において, それぞれ同所的に生息する複数種の霊長類の採食行動, 社会行動, 性行動, 個体群動態等について比較調査した. これらを合わせて, 各種の行動様式と社会構造の環境への適応を比較考察している. またコンゴ国北東部において, 植生環境と霊長類の種構成に関する広域調査を行った.
- 2) 西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動生態学  
杉山幸丸・山極寿一・佐倉 統<sup>4)</sup>  
伏見貴夫<sup>4)</sup>

ギニア国ボソウに生息する野生チンパンジーの個体群を個体識別の下に長期追跡調査をしてきた. 本年度は道具使用行動について実験的操作も含めた調査を行う一方, チンパンジー分布域全体に広がる文化圏形成の理論化, 性周期の同調機構の理論化など, 現地調査によって得た資料から一歩進んだ課題へと進んだ.

一方, ザイール国東部の熱帯性山地林や低地多

- 1) 非常勤講師
- 2) 社会研究部門
- 3) 学振特別研究員
- 4) 大学院生